



GCOM-W (しずく) の成果と後継ミッションの利用展望 ワークショップ

開催趣旨

2012年5月に打ち上げられたGCOM-W「しずく」の5年間の成果を確認するとともに、その成果を踏まえた今後の課題や、関係省庁・関係機関とJAXAの連携した各利用分野での取り組みについて、関係各機関で共有し、現在GOSAT-3との相乗りを見据えて調査を実施しているAMSR2後継センサに向けた期待や展望を語るワークショップを開催します。

主催：国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構

日時：4月28日（金）14:00 - 17:45

場所：TKP 新橋カンファレンスセンター ホール5B

東京都港区西新橋1丁目15-1 大手町建物田村町ビル ☎03-4577-9628

<http://www.kashikaigishitsu.net/facilitys/cc-shimbashi/access/>

参加費：無料。懇親会有料（1人3,000円予定）。

（参加申し込み方法）

メール（下記、お問い合わせ参照）にてお申し込みください。先着80名（予定）です。

メールタイトル：【出席】GCOM-Wワークショップ

メール内容：ご氏名、ご所属先、役職、連絡先、懇親会出席の有無

お問い合わせ

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構

第一宇宙技術部門 地球観測研究センター

しずくワークショップ事務局（小野）

✉ GCOM-W_FO_ML@ml.jaxa.jp



開会

第一部：GCOM-W の成果及び AMSR2 後継センサに向けた期待と展望

- (1) GCOM-W の成果及び AMSR2 後継センサに向けた期待と展望：東京大学 生産技術研究所
教授 沖 大幹
- (2) GCOM-W と AMSR2 後継センサに向けた取組状況：JAXA

第二部：水産

- (1) 漁業利用ニーズと水産庁利用について：水産庁増殖推進部研究指導課海洋技術室長 三野 雅弘
- (2) GCOM-W を利用した水産利用の現状と高度化された AMSR2 後継センサでの水産利用の拡大について：水産研究・教育機構 海洋・生態系研究センター長 杉崎 宏哉
- (3) GCOM-W 等を利用した海洋モデルの利用実証と今後の取組みについて：海洋研究開発機構アプリケーショラボ 所長代理 宮澤 泰正

【質疑応答・休憩】

第三部：極域・氷海域船舶航行

- (1) 北極海航路の現状と北極海航路航行で必要とされる海水情報について：国土交通省総合政策局 海洋政策課主査 志水 康祐
- (2) 極域・氷海域における海水情報提供の現状や課題と AMSR2 後継センサに向けた新たな取組みについて：国立極地研究所 国際北極環境研究センター特任准教授 矢吹 裕伯
- (3) GCOM-W 等を利用した北極海航路の海水情報提供サービスの現状や課題：(株)ウェザーニューズ 氷海気象チームリーダー 佐川 玄輝
- (4) 北極海航路でのモジュール輸送と衛星等による海水情報利用と課題：日揮(株)第 1 事業本部 LNG プロジェクト部ヤマール LNG プロジェクト ロジスティックスエンジニア 植木 孝太

第四部：GCOM-W の科学的成果と GOSAT-3 とのシナジー効果

- (1) 海水研究の生命線 AMSR-気候変動研究への日本の最大の貢献-：北海道大学 低温科学研究所教授 大島 慶一郎
- (2) AMSR2 後継センサと GOSAT-3 とのシナジー効果について：北海道大学 低温科学研究所 教授 江淵 直人

【質疑応答】

閉会